

連携だより

平成24年 **11** 月号

平成24年11月1日発行

独立行政法人 国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター
地域医療連携室

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
TEL 0823-22-3816
FAX 0823-32-3070

URL <http://www.kure-nh.go.jp/>
E-mail renkei@kure-nh.go.jp

消化器合同オープンカンファレンス

日時 平成24年**11月7日(水)** 19:00~

場所 呉医療センター管理棟4階 研修センター1・2

演題 肝・胆・膵及び上部下部消化管を対象疾患とし、画像診断から手術・病理診断まで担当各科で検討
症例1：胆管周囲嚢胞の一例
症例2：潰瘍性大腸炎緩解期に合併した大腸癌の一例



地域医療研修センター定期講演会のお知らせ

演題および講師 「がん診療における形成外科の役割について」
形成外科科長 安積 昌吾

日時 平成24年**11月21日(水)** 19:00~20:00

場所 呉医療センター管理棟4階 研修センター1・2

形成外科はがん診療においては切除や根治を目指す診療科ではなく、がんの切除によって大きな欠損や機能障害が生じた患者様の機能回復、整容性の確保を目的に治療を行っています。
講演を通じて形成外科の役割を知っていただきたいと思います。

内科オープンカンファレンス

日時 平成24年**11月29日(木)** 19:00~

場所 呉医療センター管理棟4階 研修センター1・2

医長講義

「失神を来たした症例」

統括診療部長 循環器内科科長 川本 俊治

症例1：(仮) 消化管疾患の一例

消化器内科医師 山下 賢

症例2：(仮) 消化管疾患の一例

消化器内科医師 保田 和毅



10月1日付 新職員紹介

平成24年10月に赴任・採用となりました医師をご紹介します。専門領域等ご参考にしていただければ幸いです。宜しくお願い致します。*別紙専門領域一覧もございますのでご活用ください。

澤 崎 隆



専門 産婦人科全般、婦人科腫瘍

資格等

日本産科婦人科学会専門医、母体保護法指定医、医学博士、日本臨床細胞学会細胞診専門医指導医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、暫定教育医、米国アーカンソー大学visiting assistant professor、臨床研修指導医

趣味

温泉旅行、ゴルフ

ご挨拶

H2年に広島大学卒業後 大学院→尾道総合→中電→国立呉→大学病院→米国留学→広島総合→県立広島→中国労災→と異動してまいりました。呉医療センターは2回目の勤務になります。婦人科悪性腫瘍のご紹介よろしく申し上げます。

佐 竹 宏 文



専門 泌尿器科一般

資格等

日本泌尿器科学会専門医
日本泌尿器科学会指導医

趣味

バレーボール

ご挨拶

高知から来ました。
こてこての土佐弁で、呉で頑張りますので、よろしく申し上げます。

救急外来へのご紹介について

救急車で搬送する患者様のご紹介は、救命救急センター医師が症状等を直接お伺いさせていただきますので、「救急外来受付」まで電話でご連絡いただきますようお願い申し上げます。

平日 昼間 8:30~17:15 0823-22-3111

土・日および夜間 17:15~8:30 0823-23-1020

リニューアルした内視鏡センター

消化器内科医長 桑井 寿雄

ここ最近の内視鏡検査および内視鏡治療に対するニーズの増加は著しく、ここ5、6年で当院における内視鏡検査は上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）が約1.2倍（約4700件／年）、下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）が約1.4倍（約2400件／年）となっております。さらに近年特に早期癌に対する内視鏡治療に関してはその進歩がめざましく当院では最先端の治療を施行しているため、治療件数も激増しております（早期胃癌の内視鏡治療の場合6年前の2.5倍）。また新たに小腸カプセル内視鏡やバルーン内視鏡などの最新設備も設置しており内視鏡検査も多種多様になっております。しかしながら当院の内視鏡センターは本病院建築以来のままであったため、検査・治療数の増加に対し十分対応ができなくなってきました。そこで今回約1ヶ月の期間を要する大規模な改修工事を行いました。また、内視鏡検査補助員を4名に増員し、たくさんの患者さんにも細かなところまで目が届くように配慮しました。

今回の改修により主に以下の4点が改善されます。

1. 検査室が完全に個室化されました。プライバシーを保護しつつ、検査に関する情報は中央管理室でモニターされていますので安心して内視鏡検査をうけていただけます。
2. 内視鏡用リカバリールームをつくりました。いままでスペースの関係でなかなか鎮痛剤鎮静剤を使用できませんでしたが、今後はご希望の方には使用し楽に検査をうけていただけるようになります。ただし鎮痛薬鎮静薬使用後は車の運転などできませんのでお気をつけ下さい。
3. 内視鏡用診察室をつくりました。今までオープンなスペースでしか治療後の説明などできませんでしたが、今後はプライバシーに配慮した診察室でお話ができるようになります。
4. 経鼻内視鏡を導入しました。以前よりご要望が多かったのですが、今まで人員不足などでなかなか導入できませんでしたが、今回より施行可能となりました。症例によってはできないこともありますので、主治医あるいは検査医にご相談ください。

今までは不便に感じられるところもあったと思いますが、改修後はより安全、快適で楽に検査を受けていただけるようになります。当内視鏡センターは、これ以上ない最新の機器、設備を保有しており、日々の鍛錬及び研修で技術をみがき、治療成績はトップクラスです。とくに食道癌、胃癌、大腸癌などは早期発見で内視鏡治療すれば、完治できる病気です。内視鏡検査による早期発見早期治療を心掛けていただくとともに、内視鏡に関して不安なことや心配なことなどありましたら、なんでもご相談いただければと思います。



フットケア外来を開設して

呉医療センター 宮首 春美

糖尿病は現代病とも言われ、患者の高齢化とともに合併症の発生が大きな社会問題となっています。また、糖尿病が原因での罹患率の増加・合併症の進行・動脈硬化疾患の併発などを背景に糖尿病の足病変に罹患する患者が増加しています。糖尿病足病変は治癒しにくく、治療が遅れると重症化して足の切断を余儀なくされることもあります。

当院では、2011年7月1日に糖尿病患者さんの足をケアすることで、足病変を予防する目的でフットケア外来を開設しました。

外来では、患者さんの生活習慣についての問診と足の視診を行います。その際に作成したパンフレットを用いて、糖尿病と動脈硬化や足の観察ポイント、生活上の留意点について、患者さんに合わせた生活指導を行っています。

現在、数名の患者さんが通院しておられます。昨年よりフットケア外来を担当して感じたことは、継続した足の観察とケアの大切さと患者さんの背景把握した上で指導を行うことの重要性です。フットケア外来に継続して通っている患者さんは、疾患に対して自己ケアの関心が高い患者さんです。しかし、その方たちでも糖尿病と足病変についての理解と足の観察ポイントや生活上の留意点についての理解はなかなか難しく、月1回、1時間の外来では困難なこともあります。

今後は、患者さんの理解度に応じて、ご家族を含めた家族指導を行っていくことが課題です。外来での継続した足の観察とケア方法の指導を定期的に行うことで、患者さんが自宅に帰って自己ケアを行い、フットケアの重要性を認識し、異常の早期発見・早期治療に繋がるように看護師として働きかけることが大切だと感じています。

現在、フットケア外来に通院中で重症化した患者さんはおられません。今後も足の観察とケアや個別性のある生活指導を行い、糖尿病性の足病変の重症化を予防することで患者のQOLの向上を目指し、専門性の高いケアを提供していきたいと思えます。



がんサロンのご案内

11月9日（金）別紙ポスターの通り、「がんサロン」を開催します。